

価値観領域 — 物事を評価し判断する基準 —

		配点				
		5	4	3	2	1
意志 WILL	テーマ1 今の自分を肯定的に捉え、他者が尻込みする課題にも好んで挑戦し続けることが多い。	今の自分を肯定的に捉え、他者が尻込みする課題にも好んで挑戦し続けることが多い。	今の自分を肯定的に捉え、弱点から目を背けずにその改善に積極的に取り組み、失敗して自信を失わず、自ら挑戦し続けることが多い。	今の自分を肯定的に捉え、自ら挑戦の場を求めることがあるが、失敗したときは続けて挑戦しなくなるが多い。	今の自分を肯定的に捉えており、挑戦する場が与えられれば逃げることが少ないが、自分から求めることはほとんどない。	今の自分を否定的・批判的に捉えていて、自分に自信が持てず、挑戦する場や機会から逃げるが多い。
	テーマ2 新しい情報を取り入れて、自分の将来の計画に役立て、生きようとする	「10年後の自分のイメージ」を明確に持っており、その達成のために周囲からの厳しい助言を積極的に受け入れて、具体的な行動につなげることが多い。	「10年後の自分のイメージ」を持っており、自ら進んで周囲からの助言を受け入れることが多い。	「10年後の自分のイメージ」はまだ考えられていないが、直近の将来のために周囲からの助言を受け入れ、取り組むことが多い。	将来の計画を立てることはあるが、一度計画が崩れるとこだわりを捨ててしまい、修正することはほとんどない。	自分の将来について計画を立てて取り組むことが苦手で、計画通りに進めようとしにくいことが多い。
情熱 passion	テーマ3 学術的探究に対する情熱	興味・関心の高い分野について、「4」に加えて自分なりの見解をまとめ、対外的に発表しようとする。	一部の科目に特に強い興味・関心があり、学校での学びにとどまらず学術書等を読み込み、専門的な知識を得ようとする。	一部の科目に興味・関心があり、与えられた課題以外に予習・復習などの自主的な取り組みをする。	興味・関心の持てる授業がほとんどないが、与えられた課題には取り組む。	興味・関心の持てる授業がほとんどなく、与えられた課題に対してもきちんと取り組まず、注意されることが多い。
	テーマ4 課外活動に対する情熱	4に加え、生涯にわたって生きがいとなるような活動を見つけ、高いレベルで取り組んでいる。	課外活動にストイックに取り組み、自らを高めようとしている。	課外活動に楽しんで取り組んでいる。	学校生活に課外活動は必要だと思うが、興味を持てるものがない。	学校生活における課外活動の必要性を感じない。

スキル領域 — 物事を行うための能力 —

		配点				
		5	4	3	2	1
思考力 THINKING	テーマ11 クリティカルシンキングをする力	4ができた上で、自身の視点や発想を周囲と共有・提示することで、周囲の人たちの考えや認識レベルを引き上げるという経験をしたことがある。	3ができた上で、問題点や優れている点を指摘するだけでなく、問題点は改善し、優れている面はより伸ばしていけるような視点や発想を生み出すことが多くある。	周りから得た意見や情報に対して疑問を持った際、問題点や共感できない部分ばかりではなく、優れている面も指摘することができ、異なる立場の人からも共感を得られることが多い。	周りから得た意見や情報に対して疑問を持った際、問題点や共感できない部分だけを指摘することが多い。	周りから得た意見や情報を信じやすく、「なぜ」、「どうして」という疑問を持つことがほとんどない。
	テーマ12 課題を洞察し、解決する力	4ができた上で、現状をより好転させるために何ができるか「未来への次の一手」を考え、問題・課題を未然に防ぐことが多くある。	3ができた上で、将来起こりうると考えられる課題を予測することができる。が、予測を外すことや具体的な解決策が不適切で問題解決に結びつかないことがある。	自身の学校生活において、自己の生き方や所属する集団の問題点を指摘するだけでなく、表面化している問題の多くは自らの力で解決策を検討し、解決することができる。	自身の学校生活において、自己の生き方や所属する集団の問題点を指摘することはほとんどない。	自身の学校生活において、必ずしも現状が最適とは考えていないが、自己の生き方や所属する集団の問題点が何かを指摘することができない。
判断力 JUDGEMENT	テーマ14 周囲に流されず、自分の信念を持って判断する力	4ができた上で、正解が決まっていない課題や問題に対し、周囲からの助言や情報を参考にしながらも、自らの判断基準に明確に優先順位を付けることで、周囲も納得する素早い判断をすることが多い。	3ができた上で、正解が決まっていない課題や問題であっても、自らの判断基準を多く持つことで、素早く判断ができる。ただ、周囲からの助言や情報で判断基準の優先順位を変更し、後から悔やむことも多い。	自分が解決すべき課題や問題について、選択肢が示されている場合であれば、自らの判断基準に基づき、場面に応じて正しい選択をすることが多い。	自分が解決すべき課題や問題について、選択肢が示されている場合であれば、安易に他人を頼らずに判断することができる。ただ、判断基準を明確に持たずに判断するため、選択に自信がない。	自分が解決すべき課題や問題について、選択肢が示されている場合でも、自分で適切に判断する自信が持てず、他人に判断を委ねることが多い。
	テーマ15 マニュアルや慣習にとらわれず、場に応じた行動を選択する力	4ができた上で、マニュアルや慣習の背景を理解し、周囲も納得する臨機応変な行動がとれる。その結果、自身の判断や行動が新たなマニュアルや慣習として認められることがある。	3ができた上で、マニュアルや慣習の意味や背景を理解した上で、その場に応じた行動をとるため、周囲からも正しい行動を選択したと評価される。	マニュアルや慣習に問題意識を持ち、その場に応じた行動を考え実行することはある。ただ、自分の判断を主張する根拠が示せないため、周囲から評価されることは少ない。	マニュアルや慣習に問題意識を持つことはあるが、自分の判断を主張する根拠が示せず、結果的に周囲に流されてしまうことが多い。	マニュアルや慣習から外れると不安になることが多いため、状況が大きく変化した場合でも、その場に適した行動が思いつかず、いつもと同じ行動をすることが多い。